
ヴィアス国記

南方廻音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヴィアス国記

【Nコード】

N6018Y

【作者名】

南方迴音

【あらすじ】

科学者、ロザンヌ・パポールによって開発された薬品。それによって魔法を手に入れた者達は自らを神子と名乗り人間を虐げるようになる。

ヴィアス帝国第一王子、ミエラ・ヴィチィアスは人間の子供、天然の、生まれえながらの神子。

両親を殺され、国王に引き取られたミエラは恨みつつ、父として国王慕っていた。

カリユーナ・パーパスはミエラの実の妹。

人間によって引き取られたカリユーナはレジスタンスの一員として戦っていた。

10年後、危機を迎えた国で王族とレジスタンスのリーダーとして再開を果たす。

人間を虐げ殺しすぎた故の労力の減少と人間達の抵抗によって傾いた国家は人間、神子ともに滅びる寸前だった。

一刻を争う事態にミエラは平等を唱える神子とともにレジスタンスのリーダーに加担する。

序章

ヴィアス帝国は、大陸で一番大きな国だ。

ユフラシス大陸の半分以上を占める面積。温暖な地域が多く、作物は豊富。他国との交流も多いので物資に困ることはない。

そして、何より5000万を誇る王国軍により、他国からの侵略も恐れることはない。

問題があるとするなら、それは人間だろう。

約300年前、ある国の科学者、ロザンヌ・パポールにより開発された薬品。

投与するだけで俗に言う『魔法』が手に入る世紀の発明。

だが、それには1つ欠点があった。

適合者と不適合者の存在だ。

それは300年たった今でさえ改良できていない。

『魔法』という力を手に入れた者達は自らを神子と名乗り、人間を劣等動物と蔑むようになった。

それは年々悪化し、今の人間は神子にとって道具でしかない。

奴隷、遊女、など過酷な仕事を強いられ、虐殺や拷問も少なくない。

ちょっとした理由で人間はすぐに殺される。

国外に逃げた人間や国内でもレジスタンスや逃げ隠れている人間も多い。

では、神子達が皆そんなに外道で非情なのかということそうではない。

口にしないだけで、人間への酷すぎる仕打ちに疑問を持ち、反対するも者も少なからず、いる。

しかし、そんなこと口に「しようものならすぐさま斬首刑だ。

国王は人間を嫌っている。

ヴィアス帝国第一王子、すなわち次期国王後継者、ミエラ・ヴィ

チィアスも、人間への差別に反対する者の1人だった。
なんせ、彼は国王の実子ではない。

彼は人間の間生まれ、国王に両親を殺された天然の、生まれながらの神子なのだ。

過去

悲惨な光景。

目前に広がるのは人々の死体と燃えたテント。

ミエラは隣にいる妹、カリユーナの手をぎゅっと握りしめた。

「行こう。カリユーナ。母さんを助けなきゃ」

カリユーナがこくりと頷く。

二人は家へと歩き始めた。

まだ奴等がいる可能性を考え遠回りになるが森を通り、時々聞こえる葉のすれる音に怯えながら二人は歩いた。

十分ほどしてたどり着いたテント。

其処は奴等が来ていないようで、無傷だった。

「ただいま。母さん」

二人は声を揃えて言った。

母は二人を見ると目を見開いて驚いた。

何事かと、二人は顔を見合わせる。

そして、あることに気付いた。

母は、二人を見ているのではない。

二人の後ろにいる『何か』を見ているのだ。

「ミエラ！カリユーナ！逃げなさい！」

母は叫び、二人を押し退けた。

母の悲鳴、回りの悲鳴、轟く銃声。

ミエラはカリユーナの手をとって、入口にいる男の脇をすり抜け外に出た。

走らなければ。逃げなければ。妹を守らなければ。

ともかく遠くへ。

ミエラは走った。

突然、右の足首に激痛が走った。足首が熱い。

一発の銃弾が、ミエラの足首を貫いたのだった。

「逃げる！カリユーナ！」

転がったミエラを一瞥し、カリユーナは走り出した。
最後に、微かに聞こえた妹の声。

「ごめんね」

ミエラはニツコリと微笑んだ。

ああ、足首が痛い。

ミエラは上半身を必死で起こし、傷口に手をやった。

「うぐっ！」

触った瞬間、今まで以上の痛みが走る。

もう一度、傷口を触る。

傷は…ない。

これが、ミエラの『能力』だった。

「ほう。」

頭上から、突然声が聞こえた。

低い、覇気のある声が感嘆の声をあげる。

見上げると、そこには三十半ば程の男が立っていた。

「おもしろい。坊主、神子か…」

ミエラはキツと男を睨み付けた。

男はミエラを担ぎ上げ、言った。

「親は神子なのか？」

「ちげえよ！俺は人間だし、母さんも父さんも人間だ！」

「では、貴様、生まれつき神子なのか？」

「だから違って…」

「ふん。おもしろい。よし、坊主。私と共にこい」

文句を言うミエラを無視し、男は歩き始めた。

幸か不幸か。国王に気に入られたミエラは、こうして王族に迎え入れられたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6018y/>

ヴィアス国記

2011年12月30日20時48分発行